



都 計 第 262 号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

白岡町長 濱 田 福 司



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

道路行政の推進につきましては、日頃から格別なるご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号にて依頼のあった標記の件につきましては、別添のとおりご回答申し上げます。

担当 都市計画課 岡安
内線 231

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①
埼玉県白岡町

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- 1 圏央道等首都圏環状幹線道路の整備推進を図り、放射状幹線の渋滞の緩和を図る。
- 2 大雨等の災害に強い道路整備の強化推進を図る。
- 3 災害時には、国、県、市町村が早期に情報を共有できる体制を整備強化し、二次災害等の発生の回避を図る。
- 4 通学路や市町村幹線道路等においては歩道整備の推進を強化し、安全空間の確保を図る。
- 5 既存高速道路の雨水流下現況等を見直し、流下河川等の氾濫の緩和を図る。
- 6 既存道路(高速道路法面を含む。)については、雑草の刈り込みを徹底し、火災等発生の回避を図る。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②
埼玉県白岡町

○現状

- 1 東西に細長い町の中央を東北縦貫自動車道により分断されている。
- 2 昭和44年から都市計画道路の整備を計画し、現在17路線約26kmが計画決定され、19年度末現在で約15kmが完成している。
- 3 生活道路の整備状況は、平成19年度末現在で、舗装率約63.7パーセント歩道設置率は約6パーセントとなっている。

○課題

- 1 東西方向の道路整備
- 2 渋滞の改善や町の活性化を図るため、幹線道路等の早急な整備
- 3 安全性、利便性、更には快適性を高めるため、既存道路の維持管理、及び改良の推進、また、高齢者等社会的弱者への配慮のための、道路の質の向上を図る。

1 幹線道路網の整備

(1) 首都圏中央連絡自動車道の整備促進

首都圏中央連絡自動車道の整備を促進するとともに、(仮称)菖蒲・白岡インターチェンジへのアクセス道路の整備を図る。

(2) 都市計画道路の整備

都市計画道路については、市街地整備事業の推進と併せ、関連路線の整備促進を図る。未着手路線については、周辺の土地利用動向に配慮しながら、整備促進を図る。

(3) 幹線町道の改良

交通の流れや交通量を考慮し、利便性や安全性に配慮した拡幅改良を推進する。

(4) 広域道路網の検討

幹線道路網の計画策定に当たっては、広域的な観点から、必要に応じて近隣市町との調整を図る。

2 道路環境の向上

(1) 生活道路網の整備・充実

安全で快適な生活環境の確保に向けて、狭小道路の拡幅や、歩道の整備、舗装等の整備・改修などを推進する。

(2) 橋梁の整備

橋梁の耐震化に努める。

(3) 福祉的配慮の強化

市街地、通学路、及び公共施設周辺など、多くの高齢者や子供などの歩行者が道路は、歩道整備や段差の解消など、バリアフリー化を推進する。

(4) 住民協働による道路環境の整備

住民協働のもと、街路樹や花の植栽、塀の生垣化など、人に親しめる道路環境の整備に努める。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④
埼玉県白岡町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
都市計画道路の早期整備	都市の骨格を形成し、都市の発展に大きな影響を与える都市計画道路は市街地内の主要幹線として、また、国道や県道及び行政を結ぶアクセス道路として、整備は必須である。基盤整備と合わせた考えもあるが、道路単独で整備を行なうことも必要である。	沿線や周辺の環境がかわり、駅までの通勤経路、商店街までの買い物など、快適性や利便性の向上が期待できる。	
都市計画道路の整備と併せた、沿線生活道路等の拡幅修繕等の推進	特に未整備となっている、市街地内の道路は狭小で危険性の高い道路も存在する。そこで、市街地内の都市計画道路と合わせて、接続する現道の拡幅や修繕を行う。	危険箇所を解消することにより、安全性と利便性の向上が期待できる。	
少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	「高齢者、身体障害者の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」に基づき特に市街地を主とした重点整備地区を定め、都市計画道路や接続道路の構造について、高齢者や身体障害者の移動を円滑にできるようにする。道路の構造については、道路構造令に基づき、歩道の落差を最小限とし、歩道と車道の区別がつくようにする。また、歩道の勾配もつまずくことなく、5%以下の緩やかな勾配で整備を行う。	高齢者や身体障害者の方たちの歩行等に支障となる道路構造を解消することにより、安全性と利便性の向上が期待できる。	
東北道アンダーパス冠水対策	当町の東北自動車道については低盛土工法で施工され、機能補償で造られた交差道路のほとんどが地下ボックス構造で現在7箇所にポンプが設置されている。しかし、豪雨時には冠水することが多く、特に近年のゲリラ豪雨で、他県では死亡事故も報道されるなど、年々危険度が増している。その対処としてポンプの増設や排水先水路の排水能力強化について広域的にとらえるとともに、警報装置設置等の工事が早急に必要となっている。	歩行者、自転車、自動車等通行者の安全が図られる。	

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

埼玉県白岡町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
歩道整備(通学路等)	当町の国県道の大部分は歩道整備がされているが、町道については6%程度しか整備されていない。そのため、市街地の幹線道路や通学路の早期の歩道整備が望まれている。しかし、市街地については既に家屋が建ち並んでおり、二次的整備になることから物件補償に多額の費用が必要となるため、整備が進んでいない。	歩行者等通行者の安全が図られる。	
道路の維持管理	近年、トラック等運搬車両の大型化や国県道の渋滞回避のため、町道を迂回路とする車両が増え、道路の傷みが著しく早くなっていることから、幹線道路を中心とした舗装補修等の工事が早急に必要となっている。	町道(生活道路)の通行の安全が図られる。	
側溝蓋架整備	歩行者、特に高齢者の通行の安全のため、側溝の蓋架け要望が近年増えている。しかし、昭和50年代前半頃までに整備された生活道路については、構造が蓋を架けると不安定で車両が乗り入れる構造となっていないことから、側溝も同時に改修する2次的整備が増えている。	歩行者、自転車等通行者の安全及び生活環境の向上が図られる。	
橋梁維持管理	町内の橋梁の多くが築30年経過しており、地震対策として、計画的な点検、維持補修が必要である。	地震時における歩行者、自転車、自動車等通行者の安全が図られる。	
踏切拡幅改良	町内の踏切のほとんどが歩車道分離されておらず、通学路指定されている踏切については、積極的に拡幅改良を進める必要がある。	学童等歩行者の安全が図られる。	